

03

保守再生の好機

田中秀征 著

民意に立脚した良質の保守か、著者が言いつつところの「官意」に引きずられた昨今の保守か。保守政治の劣化を論難し再生を期す本書のテーマは、「解釈改憲と集団的自衛権」批判、イスラムへの対応、抑制的ナショナリズムと「質実国家」の勧め、統治構造と選挙制度の改革などで、内容は明快かつ論点は説得的である。さががけ時代のエピソードや自民

党の領袖たちの評価も交えつつ、著者ならではの強靱な保守像が提示される。

集団的自衛権はそもそも徴兵制でなければ機能しないし、日米の軍事的一体化が進んで日本の独立性・自主性は大きく毀損するうえに、イスラムの敵と見なされて日本の安全が脅かされる。これが本書における集団的自衛権批判の根幹である。施主の国民のために政治家が描いた設計図どおり建築すべき大工の官僚が勝手に設計図を描き直して家を建てる、など卓抜な比喻が多いのも特徴だ。政権支持者も批判派も熟読の価値あるタイムリーな書。(純)



ロッキング・オン
1200円+税